



Dr. 岡田の 南極物語リターンズ

第10回：復路の試練1（肛門に異変が・・・）

1月2日にドームふじ基地を出発し、いよいよドーム隊は復路に突入しました。主な任務は終了しているだけに、あとは体調を崩すことなく元気で帰り着くことに全集中するはずが、4日になり僕の肛門に異変（痛み）が生じました。鏡で確認したところ、肛門のすぐ脇に1.5cm大の腫瘤を認め、「血栓性外痔核」であることが判明。長時間にわたり雪上車を運転していたのが原因と思われました。しばらくは痛み止めを飲みながら我慢して運転を続けていたところ、3日後には痔核が破裂し、出血を併発。それから僕は毎晩自分で洗浄＋軟膏塗布を行い、医療材料として持参していた生理用ナプキンをあてる処置を続けました。このことは恥ずかしい場所の病気であることや他の隊員に心配させたくないこともあり、誰にも言えませんでした。しばらく孤独な闘いが続きましたが、処置が功を奏し、1週間後には無事回復しました。しかし安心したのは束の間。復路の苦難はまだ続きます。



←痛みと格闘中

つばさ新聞

理事長のコメント

今年も暑い季節がやってまいりましたが、いかがお過ごしでしょうか？未だ続くコロナ禍で、感染症対策としてマスクの着用を多くの場面で求められますが、そのマスク着用により熱中症のリスクが高まる恐れがあります。日頃から水分をしっかりと取りながら、状況によってはマスクを外すなどの方法も行い、熱中症対策にも取り組んでください。

さて、先日一冊の本が当院に届きました。「自分らしい最期を生きる人の9つの物語」という本です。これは、在宅療養される患者さんの夢を叶える団体の方が執筆された本で、当院と一緒に患者さんの「夢」を叶えたエピソードも書かれていました。その時の事は今でも鮮明に覚えており、患者さんの嬉しそうな笑顔を思い出します。

当院も、診療だけではなく、患者さんの「夢」を叶えたいと考えております。お役に立てることがあればいつでもサポートさせていただきます。

（医療法人つばさ 理事長 中村 幸伸）

新人職員紹介



在宅生活をサポートする 医療・介護サービスのご紹介

居宅介護支援事業所



せいわ介護サービスセンター 管理者 内田 由美

サービスの紹介

- ・介護支援専門員（ケアマネジャー）を配置した事業所です。ご利用者様が可能な限り自宅で自立した生活を送られるよう、心身の状況や環境に応じた介護サービスを利用するための相談に応じたり、ケアプランを作成したり、さらには介護サービス事業者との連絡・調整を行います。
- ・退院時や施設からの在宅生活へ移行時には、医療機関や介護施設と連携し、スムーズな在宅復帰につながるよう調整します。

事業所の特色

多岐にわたる専門職との連携に必要な知識を総合的に高め、コーディネーターとしての実務的な能力を備えるとともに、専門性の維持、向上を継続的に行う為に誠和会内外問わず研修を積極的に受け、ケアマネジャーの資質向上に努めています。

これからもご利用者様、ご家族様が安心して在宅生活を継続して頂けるようご支援させて頂きたいと思っています。いつでもご相談ください。



せいわ介護サービスセンター

〒710-0803 岡山県倉敷市中島770-1
電話：086-466-6355

医師



まつだ ひろあき
松田 浩明

■ 弾き語り・英会話・読書
子供のころ、種のようにして夢を叶えたことにハマっています。
体力と気力のバランスをとりながら在宅の分野でも一人前になりたいと思います。

医師



いわた けんた
渡井 健太

■ ゴルフ、サーフィン、ラグビー
倉敷中央病院で7年間働きました。今後も倉敷の地域医療に貢献したいと思っております。

言語聴覚士



こうばら いつみ
郷原 逸美

■ 家族とゲームをすること
これまでの経験を活かしつつ、訪問リハビリという新たな現場で日々学びながら一日でも早く患者様・ご家族様の生活の支えになれるよう努めてまいります。よろしくお祈りいたします。

看護師



くろき ますこ
黒住 雅子

■ 子供の野球観戦
寄り添う看護を行っていきたく思っております。ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、一生懸命頑張りますのでよろしくお祈りいたします。

事務



いのほら まさと
猪原 正人

■ ピアノ・動画編集
早く一人前になってバリバリ働きたいです。初めての在宅医療なので戸惑うことが多々ありますが、一生懸命頑張ります。

メディカルアシスタント



おのにし やすゆき
大西 康行

■ 写真撮影（風景や航空機）
ただいま、一人前になれるよう、奮闘の日々です。よろしくお祈りいたします。

西日本豪雨から早4年。あの日、真備で被災された医療的ケアが必要な患者さんがいます。今回、その患者さんのご家族からお話しを伺いました。

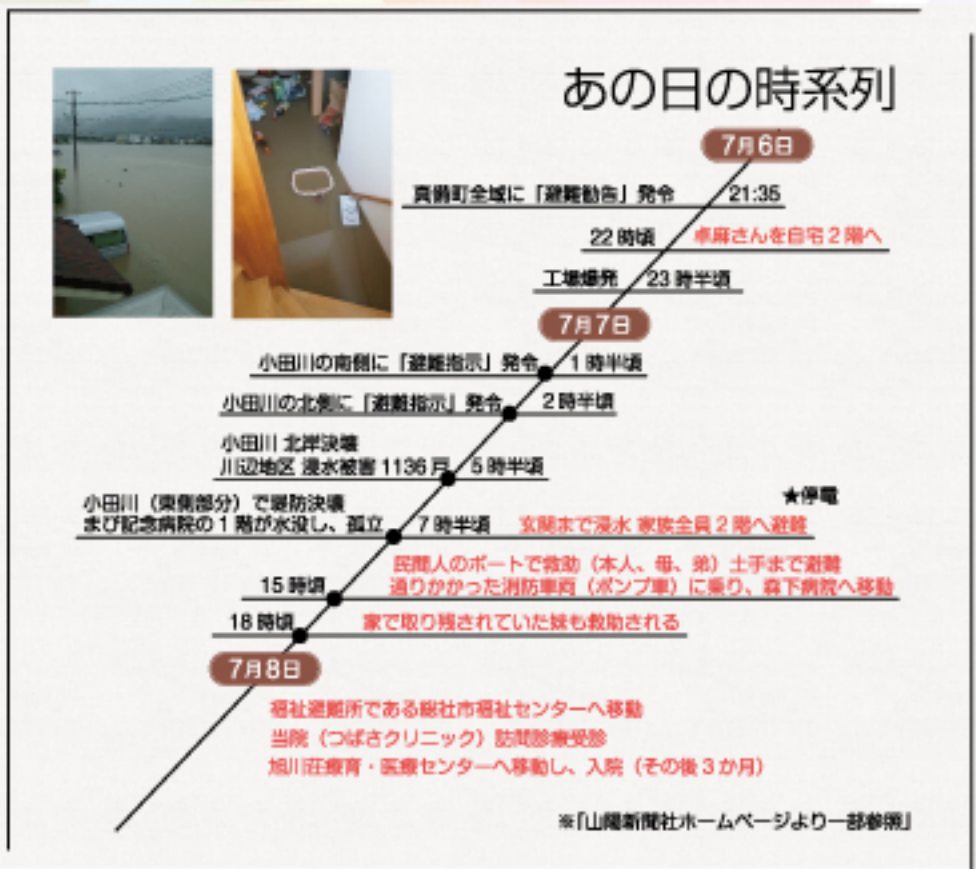


患者：齋藤 卓麻さん(23歳)
お話し頂いた方：齋藤 淳美さん【母】

倉敷市真備町川辺地区在住
父、母と4人の妹弟がいる。
気管切開をしており、人工呼吸器が必要。

必要な医療的ケア

人工呼吸器
吸引器(1回/1時間程度)
胃瘻



齋藤さんが日頃から心がけていたこと

- ・逃げるスイッチを早めにいれる
- ・人工呼吸器の予備充電とスマホは日頃からきっちり充電
- ・車に2、3日分の備えを常備(薬、オムツなど)
- ・情報収集を怠らない

あの日、いつごろから危機感を覚えましたか？

あの日は日中から、地域全体に大雨に関する放送が流れていました。夕方になって、携帯電話にいろいろな地域の避難情報などが入るようになりまし。その後、この川辺地区にも避難警報が出ました。避難するか悩んでいましたが、同じ地区の知人から「避難場所の学校は混雑して入れない」と教えしてもらい、とりあえず卓麻を2階へ移動させる事にしました。オムツや栄養剤など必要なものも一緒に

に持って上がりました。朝起きて玄関を開けると辺り一面に浸水してきており、その後30分もしたら玄関まで入ってきました。そのタイミングで停電も起こり、人工呼吸器をバッテリーでしのぐしかない状況になりました。卓麻にとってバッテリーは命綱です。バッテリーが持つのは大凡9時間なので、お昼過ぎまでなんとか考えていました。最悪、尽きてしまったときには、アンビューパック(手動の人工呼吸器具)を使う事も想定していました。

そんな中、どうやって助かったのですか？

昼頃、消防隊がボートで来てくれたのですが、酸素が切れかかっている方の救助要請を受けているようで、そのボートには乗せてもらえませんでした。その後は助けは無く、バッテリーの残量が刻々と減り不安な気持ちになってきました。外に向けて「人工呼吸器をつけた子がいます。助けてください！」と大きな声で黄色いタオルを目一杯振りながら助けを呼び続けました。すると、こちらに気づ

いた民間の方がボートで助けに来てくれました。その時は本当に嬉しかったです。ただ、ボートが小さく、家族全員乗れないため、呼吸器のバッテリーが切れそうな卓麻を先に避難させてもらいました。その後、娘二人もその方々に助けてもらう事が出来ました。今となっては、助けてくださった方に、感謝の言葉しかありません。救助してもらった後、卓麻は電源のある森下病院さんに避難させてもらいました。避難するまで、多くの方に助けていただきました。本当に運が良かったと思っています。

医療的ケアのあるお子さんを持つ親御さんに伝えたい事は？

常日頃から、「災害が起こるかもしれない」という意識でいたほうが良いです。その為の備えが大事です。何よりも電源関係は重要で、人工呼吸器の予備充電、スマホの

充電には気を付けています。日頃から避難することを想定して、お薬や栄養剤、その他必要な備品などを車の中に2、3日分常備しています。他にも、日頃から天気予報の情報を気にするようにしています。状況を見て、自分で「逃げるスイッチ」を早めに入れる必要があります。

最後に何か伝えたいことはありますか？

今思えば、色んな所で多くの方が心配してくれていました。とても有難かったです。でも、もうあんな経験はしたくない。あれから既に四年が経過しましたが、医療的ケア児への災害時の支援体制は未だ整っていないのが実感です。例えば、避難先である福祉避難所へ入れてもらうためには、一般の避難所へ一度行き、受入れ調整を行ってから福祉避難所へ移動しな

ければなりません。できれば福祉避難所への直接避難が望ましいです。当事者でないとならない事は多いと思いますけど、行政の支援も期待したいです。岡山県が、倉敷市が、福祉に強い街になれば良いなと思います。最近、日本各地で様々な災害が発生していますけど、今まで直接被災する事がなかったのです。災害の多い日本なので、経験して学んだことを伝えていかないといけないと思います。